

【別紙様式Ⅰ】 令和5年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立毛台小 学校

厚木市教育委員会の基本目標	1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】	校長名 山田 香		
学校教育目標	学校経営の方針			
心豊かにたくましく生きる子どもを育てる	豊かな心を持ち自己の目標に向かって努力し、たくましく生きる力を持った児童を育てるために教育目標を設定し、全教職員が学校教育の責任を自覚し、協力指導体制の確立を図り、信頼と和を深め、一人一人の個性と創意を生かして協働し、学校教育目標の具現化を図る。			
今年度の重点目標				
確かな学びづくり「児童主体の授業づくりとGIGAスクール構想の推進」 すこやかな体づくり「基本的な生活習慣の確立と体力向上」 豊かなこころづくり「みんなの教室(のびっくろム等)と特別活動の充実 校内研究「自分を見つめ仲間と共に思考を深めよりよく課題を解決できる子～評価の研究を通して」				
評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
(1) 確かな学び ○評価項目 学校づくりアンケート番号 ③⑦⑧	1・3	・校内研究において「評価と指導の一体化」を目指して研究に取り組んだ。 ・ICT端末の活用により、児童の思考の深まり、児童間の考えの共有の活性化を目指した。	・校内研究の体育の授業について新学習指導要領の3観点の評価について研究したことを活かし、体育以外の科目についても3観点の「評価と指導の一体化」を授業で進めていこうという意識が高まった。「主体的な学び」についての項目では、児童は「話したり、書いたり」などの自ら発信することが3%上がった。クロムブックを活用することで、「考えたことや、思ったこと」を表現しやすくなったのではないかと考えられる。・ICT端末利用は、児童は94%、教職員が100%と肯定的な回答であったことから校内でのICT端末利用は活発に行われていると考える。しかし保護者の肯定的な回答は昨年75%から80%と上がったが、さらに学校での取組を周知していく必要がある。	・「主体的な学び」をさらに進めていくために、ルーブリック評価を積極的に取り入れるなど授業や評価の改善をしていく。また来年度は「個別最適な学びと協働的な学び」を授業に取り入れて、本校のインクルーシブ教育もより一層進めていきたい。 ・ICT端末の利用が児童の学びの向上につながっていくように、chromebookを活用する場面を授業の中で計画的に設定していく必要がある。また、chromebookを利用して宿題を出したり、宿題の在り方自体を検討したりしていきたい。
(2) すこやかな体 ○評価項目 学校づくりアンケート番号 ④⑤⑥	1・2	・ドッジボール大会、なわとび週間等全校で児童の体力づくりに取り組んだ。 ・交通安全教室の実施や通学路の見直し、登下校指導など交通安全に対する児童の意識を高めたり、避難訓練を通して、自分の命を守る意識を高めたりする取組を継続して行った。	・「外遊びをしているか」という項目についての肯定的な回答は、保護者が7割、児童が6割、教職員が9割という結果であった。しかし、ドッジボール大会やなわとび週間などのイベントには多くの児童が積極的に参加する姿がみられ、運動すること自体にはどの児童も抵抗なく取り組んでいると考えられる。 ・地域の方の見守りが充実しており、今年度も大きな事故はなかった。しかし、自転車乗車時のヘルメットの着用や防犯ブザーの携帯率を見ると十分とは言えない。学校と家庭の両方で呼びかけを継続していきたい。 ・避難訓練を通して、「自分の命は自分で守る」という意識を高める取組を継続して行ってきた。避難訓練では、緊張感がない児童も見られた。	・3年間体育の校内研究をしてきたことを活かし引き続き児童の体力向上を進める取組をしていく。 ・地域学校協働活動推進本部主催でラジオ体操も行われ、地域でも児童の体力向上について考えていただいているので地域と協働してすすめていきたい。 ・近年、自然災害も多く児童にとっても「自分の命は自分で守る」ことは身近な問題となってきたので、来年度以降も継続して取り組んでいきたい。

(3)豊かな心 ○評価項目 学校づくりアンケート質問 ①②⑩	2・3	・リソースルームの配置の工夫や整備をした。 ・職員のインクルーシブ教育に対する意識を高めるために研修会を設けた。 ・児童運営委員会を中心に委員会、学級、学校運営協議会委員など様々な形態で「あいさつ運動」を展開した。	・市から派遣していただいているリソースルーム支援員を十分に活用したり、元気アップスクールの予算を使い環境整備や教材教具の工夫をししたりした。 ・インクルーシブ教育の研修を校内で行ったり、発達障害に係る研修を外部講師を招いて行ったりしたことで多様な学びに対する職員の意識が高まった。 ・あいさつ運動を展開したことにより、アンケートの数値的には教職員、保護者共に増加している。しかし、学校外の地域でのあいさつでは、まだできていないという学校運営協議会委員からの意見もある。	・多様な学びについての必要性を職員は理解しているが、実際にどのような方法で進めていけばよいかについては、具体的には動きだしていないので、来年度は「自由進度学習」など授業の工夫とともに、「個別最適な学び」について更に研修をしていきたい。 ・児童用アンケートでは「学校が楽しいか」という問いなので、「学校での生活を通して自分の力を伸ばすことができたか」などの文言を検討していきたい。 ・あいさつについては今後も児童自らあいさつを意識できる活動を様々な形態で取り入れていく。
(4)コミュニティ・スクールの推進 ○評価項目 学校づくりアンケート質問 ⑩⑫	3	・地域学校協働活動推進本部を中心に計画的に地域との連携を進めた。	・学校の様子を学校ホームページで随時発信している。 保護者は肯定的な回答が多いがコミュニティ・スクールの活動については認知度がまだ低いと思われる。昨年度より「みつやパートナー」として一つにまとまり、ボランティア活動を進めている。 ・今年度は、全学年が総合的な学習や生活科、外国語活動など様々な学習で教育活動を行うことができた。また地域学校協働活動推進本部が中心となり、夏休みのラジオ体操、新1年生下校付き添いボランティアなどの活動を行うことができた。	・学校ホームページは校内の全職員がホームページ作りに積極的に関わることができるシステムに変更したので児童の生き生きとした表情を発信していくことができたので来年度も継続していきたい。 ・ボランティアの参加者が限られた方々だけになっているのが課題であるため、今後はいろいろな方法で発信をし「みつやパートナー」の認知度を高めて、よりよいコミュニティ・スクールをめざしていきたい。
今年度の学校関係者評価委員会からの意見 ・挨拶は児童の性格もあるのではないかな。できている子どもはたくさんいる。学校に行くとき「こんにちは」と何人もの子どもからあいさつをしてもらおう。ほめていきたい。 ・学校外では、挨拶のできない子もいる。繰り返す挨拶は指導していくとよい。 ・学校の相談体制は、学校だよりなどの発信から、チームでおこなっていることが理解できる。たくさんの相談ができる機会があることはよいことだと思う。 ・外遊びをしている児童が少ない。体力低下につながるのではないかと心配している。外で遊んでいても、ゲームをしている児童もいる。 ・地域によっては、公園などで元気に遊ぶ姿も見かける。 ・交通安全に関しては、車は危険なものとして認識させていきたい。交通安全のみならず、自然災害も多く起こっているため、「自分の命は自分で守る」という意識づけをして、学校の指導をこれからも続けてほしい。 ・子ども達の学習や宿題に多くchromebookが活用されているが、学力低下につながるのではないかと心配している。chromebookだと親が教えられない。 【学校側の見解】→子ども達には多様な学びがある。その一つとしてchromebookもある。 今までの学習形態とchromebookをうまく活用し、子ども達に学びの方法を選択させていきたい。				
今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針 ・インクルーシブ教育を中心に、チームで様々な教育活動を行うことができた。GIGAスクール構想や新学習指導要領も4年目となり、より実践的な取組になるように職員で共通理解をしながら検討を進めた。今年度も学校教育目標の具現化に向けて、組織的で機能的な学校運営を心がけることができた。学校運営協議会においても地域学校協働活動推進員を中心として運営方針について丁寧に検討を重ね、「みつやパートナー」の運営基盤が整ってきた。次年度は、新しい学校教育の在り方として「個別最適な学び」と「協働的な学び」を推進し、教職員とめざす児童像を共有、連携し、地域とともによりよい学校経営に取り組んでいきたい。				